

別添 3-2-4 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造用チェックシート  
(中高層・壁式構造)



# 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・壁式構造<sup>(注1)</sup>〉

外部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 \_\_\_\_時\_\_\_\_分

## 第1次

## 外部から一見して危険かどうかの調査

### (1) 外部から一見して危険と判断される

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1 避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、1層、又は2層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2 避難建物の基礎が、崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3 避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
その他	4 隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	5 隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	6 隣接建築物から器物(窓枠や外壁、看板、屋外機器等)が落下して避難建物を破壊(崩壊)している。			危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、  
第2次 余震による危険性の調査へ移行する。

施設名称：

記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

連絡先： \_\_\_\_\_

(注1) 壁式構造とは、柱や梁がなく、壁だけの構造のこと。

# 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・壁式構造〉

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 第2次 余震による危険性の調査

### (2) 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	① 隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	② 避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	③ 周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約20cm以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可
構造躯体	④ 避難建物全体、又は一部が傾いている。  ※建物1階から順番に各階を 数カ所ずつ調査する。	床に置いた ゴルフボールが転がる  		危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、第2次 (3)各階の柱・梁のひび割れ及び損傷調査へ移行する。1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：  
記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_  
連絡先： \_\_\_\_\_



# 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

## 〈中高層・壁式構造〉

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

### 第2次 余震による危険性の調査(各階の損傷度調査用)

#### (3) 各階の損傷度調査 (担当階)

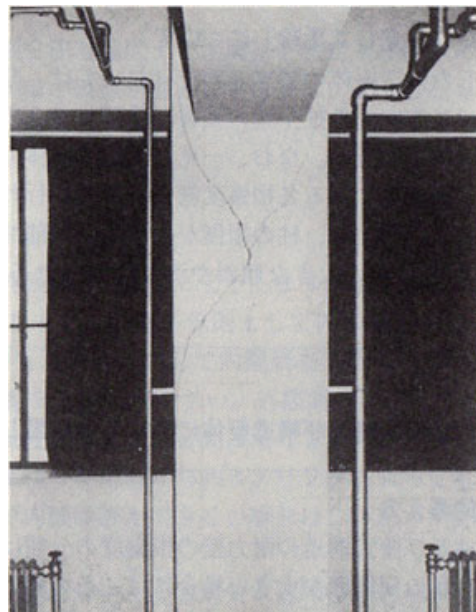
担当階の損傷箇所を数えます。  
 なお、本ページは各階で使用しますので、事前に階数分用意します。  
 また、調査結果は3/6ページの「(3) 各階の損傷度調査」に記入します。

※ 損傷箇所

目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、ずれ等  
 ひびが入っている柱1本(壁1面) = 1箇所として数える。  
 損傷箇所が多い場合は、概数(例：約100箇所)で  
 記載しても良い。

\_\_\_\_\_ 階 ( ) 箇所

担当階の損傷度



※調査後、管理者に報告する。	施設名称：
	記入者：(所属) _____ 氏名： _____ 連絡先： _____

# 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)



〈中高層・壁式構造〉

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 第2次 余震による危険性の調査

### (4) 被害最大階の柱・壁・梁のひび割れ及び損傷調査

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
被害最大階 (階)の壁	⑥ 鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている耐力壁(注2)が1面以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり床が沈下している箇所が1箇所以上ある。			危険なため 建物の使用不可
	⑦ 鉄筋は曲がっていないが、壁の向こう側が透けて見える耐力壁が10%以上ある。  損傷している耐力壁の延長① ____m 全体の耐力壁の延長 ② ____m 損傷率 ①/②×100 ____% 損傷率が10%以上ある			危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、第2次(5)落下物の調査へ移行する。  
1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：  
記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_  
連絡先： \_\_\_\_\_

(注2) 耐力壁とは、主体構造の一つとして、建物の自重(じじゅう)を支え、地震力や風圧力などの水平力に抵抗させる目的でつくられた壁。

# 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

## 〈中高層・壁式構造〉

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

### 第2次 余震による危険性の調査

#### (5) 落下物の調査

	調査項目	被害例	はい：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
窓	① 窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
内・外装材	② 【湿式壁(注3)の場合】 モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
	③ 【乾式壁(注4)の場合】 外壁や内・外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
機器	④ 看板・機器（タンクやクーラー用の屋外機器など）が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
外階段	⑤ 屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段周辺を避けて、建物の使用可能
天井	⑥ 天井面に歪みや隙間、破損等が見られる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。  ※ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。			○がある部屋は、危険なため使用不可
備考欄				

※ 全て「いいえ：×」の場合は、建物の使用を開始。  
「はい：○」がある場合は、その場所を避けて建物の使用可能。

施設名称：  
記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_  
連絡先： \_\_\_\_\_

(注3) 湿式壁とは、モルタルやタイル貼り等の壁。

(注4) 乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁。